

加賀検定

第9回 加賀ふるさと検定試験問題

初級 (全60問)

2021年12月19日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 大聖寺川(全長 38 km)、動橋川(全長 20.4 km)の2つの河川は、いずれも()
を源流としている。
①富士写ヶ岳 ②大日山 ③白山 ④刈安山
- 2 加賀市内のアメダス(自動気象データ観測所)は、現在、山中温泉()町に設置されている。
①菅谷 ②杉水 ③栢野 ④九谷
- 3 鴨池にくる渡り鳥の()は、絶滅危惧種に指定されている。
①トモエガモ ②マガン ③ヒシクイ ④コハクチョウ
- 4 加賀市の植生は、そのほとんどが()クラス域で、人の手によって管理されてきた里山をはじめ、神社の社叢などもこの植生に含まれる。
①ブナ ②ヤブツバキ ③タブノキ ④コマクサ
- 5 片野海岸には、()跡と呼ばれる軽石凝灰岩からなる奇岩群があるが、これらは、海底火山の噴火による火砕流により形成されたものと考えられている。
①わらしべ屋敷 ②奇岩屋敷 ③十村屋敷 ④長者屋敷
- 6 ベロベロという、加賀の郷土料理は、寒天を溶かして、溶き卵をショウガ汁と共に流して固めた料理で()とも呼ばれている。
①オキナ ②チトセ ③キシズ ④エビス
- 7 例年8月に行なわれる「ぐず焼き祭り」は、動橋町の()神社の神事である。
①白山 ②動橋 ③振橋 ④八幡
- 8 現在、加賀市内には、縄文・弥生・古墳時代の埋蔵文化財数が、およそ()ヶ所以上確認されたおり、県内有数の遺跡の密集地となっている。
①650 ②750 ③850 ④950
- 9 宮地向山遺跡は、旧石器時代の遺跡で、玉髓や珪質岩の硬い石材で作られた()や搔器などが見つかっている。
①石斧 ②尖頭器 ③石刃 ④細石器

- 10 縄文時代後期の横北遺跡から、数多くの石器や土器が発見されたが、県内でも珍しい（ ）の注口土器や、呪術用具とも考えられる異形土製品などを出土した。
 ①丸形 ②菱形 ③三角形 ④四角形
- 11 6世紀中頃に仏教が伝来すると氏寺が建立されるようになり、加賀市内でも（ ）・弓波・津波倉・保賀・高尾の5ヶ所で瓦や土台石等の出土品や遺構が確認されている。
 ①南郷 ②黒瀬 ③作見 ④宮地
- 12 平安末期の白山信仰の本地仏として貴重な山代温泉薬王院安置の「木造（ ）」は、明治維新まで大聖寺慈光院の本尊であった。
 ①阿弥陀如来像 ②聖観音像 ③十一面観音像 ④大日如来像
- 13 寿永2年(1183)、篠原の合戦で、木曾義仲軍の（ ）に討たれた平家軍の老武者、斎藤別当実盛が白髪を黒く染めて参戦したという伝説は、武人の哀れを物語るものとして語り継がれている。
 ①手塚太郎光盛 ②比企藤内朝宗 ③林六郎光明 ④今井四郎兼平
- 14 鎌倉時代、東国御家人の一人で、伊豆国を拠点としていた狩野氏は、江沼郡内の庄園を治める（ ）となって勢力を誇った。
 ①肝煎 ②郷長 ③地頭 ④国主
- 15 建武2年(1335)、中先代の乱に呼応して、北陸では（ ）の軍勢が上洛を目指して南下したが、大聖寺城に立て籠もる建武政権の狩野一党と応援に赴いた越前の軍勢により潰滅された。
 ①北条時行 ②名越時兼 ③足利尊氏 ④新田義貞
- 16 応永26年(1419)の裏書のある『親鸞絵伝』を所蔵する（ ）は、15世紀初頭、高田派や三門徒派が優勢な状況の江沼郡では、数少ない本願寺派寺院であった。
 ①月津興宗寺 ②河崎専称寺 ③山代専光寺 ④荻生願成寺
- 17 延徳3年(1491)、室町幕府管領細川政元に同行し北陸道を通じた（ ）は、それまでの浜通り道ではなく、中通り道をたどって越後に下向した。
 ①鴨長明 ②一休宗純 ③冷泉為広 ④吉田兼好
- 18 大聖寺城主溝口秀勝は、慶長3年(1598)4月に越前国の北庄城主堀秀治が越後国の春日山城に移動を命じられことに伴い、同国の（ ）に移動させられた。
 ①新発田 ②新潟 ③高田 ④村上

- 19 大聖寺城主山口玄蕃宗永やまぐちげんばむねながは、慶長5年(1600)8月3日の大聖寺合戦で、2万5000人の大軍を率いた金沢城主()に攻められ、長男修弘ながひろとともに自決した。
 ①前田利家まえだとしいえ ②前田利長まえだとしなが ③前田利常まえだとしつね ④前田利政まえだとしまさ
- 20 加賀藩主3代前田利常としつねは、寛永2年(1625)に郡奉行吉田伊織よしだいおりの家来久世徳左衛門くぜとくざえもんに命じ、別所村領の大聖寺川から水を取り入れて山代新村に至る()用水を完成させた。
 ①矢田野やたの ②鹿ヶ鼻しかがはな ③御水戸おすいど ④市之瀬いちのせ
- 21 大聖寺藩主2代前田利明は、万治3年(1660)に越中新川郡の目川・上野・八幡・入膳村めがわ うわの にゅうぜんなど7か村と加賀能美郡の馬場・島・串村など()を交換した。
 ①6ヶ村 ②7ヶ村 ③8ヶ村 ④9ヶ村
- 22 大聖寺藩では、加賀藩と同様に専売制の「塩手米制」により塩を生産したが、江戸後期には()・篠原新・浜佐美村の3か村のみの生産となった。
 ①塩屋しおや ②篠原しのはら ③塩浜しおはま ④伊切いきり
- 23 大聖寺藩では、寛文期かんぶん(1661~72)に領内の村々で茶の生産が始まり、江戸後期には宇治茶の製法を導入した()村が領内第一の生産地になった。
 ①山代やましろ ②保賀ほうが ③打越うちこし ④片山津かたやまづ
- 24 大聖寺藩主2代前田利明は、延宝4年(1676)に中田村五郎兵衛なかにだむらごろうべえと足軽の栗村茂右衛門くりむらしげえもんを()二俣村ふたまたむらに派遣し、御料紙ごりょうしや日常紙の製法を習得させた。
 ①江沼郡えぬまぐん ②能美郡のみぐん ③石川郡いしかわぐん ④河北郡かほくぐん
- 25 大聖寺藩主は、参勤交代さんきんこうたいで下街道しもかいどうを通行する際、必ず金沢城下に宿泊して金沢城へ出向き、藩主や重臣あかさつに挨拶するとともに宝円寺ほうえんじ(金沢前田家の菩提寺)や()を参詣した。
 ①芳春院ほうしゅんいん ②玉泉寺ぎよくせんじ ③長国寺ちょうこくじ ④天徳院てんとくいん
- 26 大聖寺藩主の在任期間は、5代前田利直の42か年や2代前田利明の33か年を除けば、短期間の藩主が多く、13代前田利行としみちの在任期間はわずか()であった。
 ①1ヶ月 ②5ヶ月 ③10ヶ月 ④1ヶ年
- 27 明治11年(1878)、江沼郡役所が設置され、その郡のもとに23の()が置かれた。
 ①区長役場くちょう ②区役所 ③町役場 ④戸長役場こちょう

- 28 大聖寺藩士石川^{たかし}嶂は、明治2年(1869)、琵琶湖^{びわこ}の^{おおつ}大津と()を結ぶ蒸気船^{いちばん}一番丸^{まる}を就航^{しゅうこう}させた。
- ①彦根 ②長浜 ③海津 ④高島
- 29 大津事件^{おおつじけん}で、ロシア国のニコライ皇太子の命を救った人力車夫^{じんりきしゃふ}の一人は、江沼郡()村出身^{きたがいちいちたろう}の北ヶ市市太郎であった。
- ①庄 ②西島 ③加茂 ④桑原
- 30 明治12年(1879)の4月から5月にかけて開催された大聖寺博覧会^{はくらんかい}の会場は、大聖寺の()と遷名^{せんめいちゅう}中学校の2ヶ所が使われた。
- ①錦城小学校 ②錦城中学校 ③錦城東小学校 ④京達^{けいき}小学校
- 31 片山津温泉は、明治15年(1882)、石川郡^{かんのんどうむら}観音堂村から井戸掘りの()を招き、特殊な工法^{くっさく}で温泉を掘削し、安定した湯量^{ゆりょう}を確保^{かくほ}することに成功した。
- ①湯出^{ゆでじんべい}甚平 ②橋^{たちばなさんべい}三平 ③森^{もり}仁平 ④矢田^{やたしろ}四郎
- 32 昭和23年(1948)6月、福井県丸岡町を震源地^{しんげんち}とする大地震^{おおじしん}が起き、江沼郡においても、死者()名、全壊^{ぜんかい}した住宅^{たくわ}が791戸と、大きな被害^{ひがい}を出した。
- ①28 ②39 ③46 ④58
- 33 平安後期、加賀山代温泉^{おんせんじ}の温泉寺^{いんせい}に隠棲^{おんせい}した僧()は、悉曇学^{しつだんがく}や梵字^{ぼんじ}の発音^{はつおん}を研究し、わが国の50音図の配列に大きな影響を与えた。
- ①浄^{じょうごん}巖 ②安^{あんねん}然 ③明^{みょうかく}覚 ④智^{ちこう}広
- 34 建武4年(1337)、南朝方^{なんちょう}の新田義貞^{にったよしさだ}に従って越前に入った()は、狩野^{かの}一党と共に細呂木^{ほそろぎ}に城を築き、足利方^{あしかが}の津葉清文^{つばきよふみ}が籠もる大聖寺の城を攻撃した。
- ①高^{こうのもろなお}師直 ②楠^{くすのきまさしげ}木正成 ③畑^{はたときよし}時能 ④北^{きたばたけあきいえ}畠頭家
- 35 文明13年(1481)に起きた越中一向一揆^{えっちゅういっこういっき}を指揮^{しん}するため、土山坊^{どやまぼう}に入寺した()は、同18年頃に、江沼郡の門徒^{やまだこうきょうじ}から取り立てられて山田光教寺に入った。
- ①蓮^{れんじょう}乗 ②蓮^{れんこう}綱 ③蓮^{れんせい}誓 ④蓮^{れんご}悟
- 36 一向一揆^{たいしょうふじまるしんすけ}の大將藤丸新介は、朝倉宗滴^{あさくらそうてき}が江沼郡に侵入^{しんにゆう}した時、南郷城^{なんごうじょう}で迎え撃ったが敗退。その後、越後^{えちご}の上杉景勝^{うえすぎかげかつ}に仕えたが、()の戦いで自刃^{じじん}したという。
- ①末^{すえもりじょう}森城 ②金^{かなざわみどう}沢御堂 ③七^{ななおじょう}尾城 ④魚^{うおづじょう}津城

- 37 小塩辻村の初代鹿野小四郎は、十村役を約 15 年間務めたのち、宝永 6 年（1709）に貴重な農書（ ）を著した。
 ① 農業全書 ② 農業蒙訓 ③ 農事遺書 ④ 耕稼春秋
- 38 大聖寺藩医樫田幻覚の 7 男大田錦城は、江戸に遊学して考証学派を大成し、論語など儒教の古典籍について記した（ ）を出版するなど活躍した。
 ① 九経談 ② 錦城文録 ③ 稽古録 ④ 柳橋日録
- 39 大聖寺藩士の小塚藤十郎（秀得）は、上木・瀬越・塩屋村など加賀海岸の砂丘地に黒松を植栽し、天保 15 年（1844）には領内の地誌本である（ ）を完成させた。
 ① 芟憩紀聞 ② 加賀江沼志稿 ③ 藩国見聞録 ④ 秘要雑集
- 40 大聖寺藩主 14 代前田利脩は、詩歌・書画や茶道にすぐれ、特に能楽は（ ）の巨匠と評され、その後の大聖寺における能楽普及に多大な貢献をした。
 ① 宝生流 ② 金春流 ③ 観世流 ④ 金剛流
- 41 大聖寺藩士の石川嶂は、明治 2 年（1869）5 月に琵琶湖に蒸気船を就航させるため、金沢・大聖寺両藩の出資により（ ）を設立した。
 ① 長崎造船所 ② 八幡製鉄所 ③ 兵庫製鉄所 ④ 横浜造船所
- 42 瀬越村の北前船主である 4 代大家七平は、明治中期に和船を西洋汽船に切り替え、ハワイやカムチャッカ、南洋諸島などへの運輸業を行い、北海道の（ ）に支店や大家倉庫を建てた。
 ① 函館 ② 小樽 ③ 札幌 ④ 根室
- 43 寿永 2 年（1183）の篠原合戦で、木曾義仲の家来に討ち取られた平家の武将、斎藤実盛が白髪を染める時に使用した鏡を投げ入れたと伝わる「鏡の池」は（ ）にある。
 ① 黒崎町 ② 深田町 ③ 篠原町 ④ 千崎町
- 44 加賀市八日市町は、平安時代末期の歌人である西行法師が都へ戻る際、同行の弟子（ ）と別れたところで、いつしかその場所には都戻り地蔵が安置された。
 ① 一遍 ② 西住 ③ 太空 ④ 法然
- 45 山中温泉荒谷町の石川県内水面水産センターには、国指定特別天然記念物のオオサンショウウオ 2 匹が飼育されているが、うち国内最大級の 1 匹は（ ）で保護されたものである。
 ① 保賀町付近 ② 九谷町付近 ③ 鶴仙溪 ④ 我谷町付近

- 46 片野鴨池周辺で江戸時代から行われてきた鴨を捕獲する猟法は坂網猟と呼ばれ、その坂網を放り投げる場所を（ ）という。
 ①網場 ②猟場 ③投げ場 ④坂場
- 47 加賀藩主3代前田利常の夫人天徳院は、将軍（ ）の娘珠姫であり、元和5年(1619)に「蒔絵角赤手篭」(婚礼調度品)を敷地の菅生石部神社に寄進した。
 ①徳川家康 ②徳川秀忠 ③徳川家光 ④徳川家綱
- 48 元禄2年(1689)松尾芭蕉は奥の細道の行脚の途中、山中温泉の湯宿泉屋に逗留し、当時、（ ）であった当主久米之助に2句を記した真蹟を与えたと伝えられている。
 ①12歳 ②14歳 ③16歳 ④18歳
- 49 加賀市（ ）町の白山神社には、北前船主の廣海家・大家家や船頭らが航海の安全祈願や無事帰郷を神に感謝して奉納した53面の船絵馬がある。
 ①吉崎 ②塩屋 ③瀬越 ④橋立
- 50 大聖寺西端の錦城山にあった大聖寺城が、元和元年(1615)の「一国一城令」により廃城となったため、錦城山は明治期まで（ ）と呼ばれていた。
 ①御城山 ②城跡山 ③御留山 ④廃城山
- 51 大聖寺町の家柄町人である4代吉田屋伝右衛門は、町年寄役や銀方役・銭方役などを務め、文政6年(1808)に（ ）村で「吉田屋窯」を開いた。
 ①吸坂 ②九谷 ③栄谷 ④山代
- 52 山中温泉の医王寺が所蔵する「陶製金剛童子立像」は、田村権左右衛門と（ ）が九谷焼の成功を喜び寄進したものと伝えられている。
 ①後藤才次郎 ②土田清左衛門 ③吉田屋伝右衛門 ④栗生屋源右衛門
- 53 加賀市動橋町の（ ）は、ベアリングや精密ピン、軸受けコロなどの工作機械部品を高度な技術で製造する企業として知られている。
 ①江沼工業 ②村田機械 ③月星製作所 ④東野産業
- 54 加賀市内には、これまで、宇谷野工場団地、小塩辻工場団地の2つの産業団地があったが、近年、新保町の農地を造成して、分譲開始した（ ）産業団地が新たに加わった。
 ①新保・伊切 ②片山津IC ③加賀北部 ④湖北

- 55 令和3年9月に公開された大聖寺（ ）は、加賀市を代表する機械メーカーである大同工業社長家の旧新家家邸宅で、市の有形文化財に指定されている。
- ①無限庵 ②鴻玉荘 ③致遠館 ④红柿荘

専門テーマ「深田久弥」

- 56 大聖寺中町出身の作家、深田久弥は大正5年(1916)、旧制の（ ）中学校に入学した。
- ①福井 ②大聖寺 ③金沢第二 ④小松
- 57 深田久弥は、昭和5年(1930)に（ ）を文藝春秋に発表し、これがきっかけで、東京帝国大学を中退し、作家活動に入った。
- ①津軽の野づら ②鎌倉夫人 ③オロッコの娘 ④あすなろう
- 58 深田久弥は、昭和40年(1965)『日本百名山』を発表し、（ ）を受賞した。これにより、その後、山の文学者として広く知られるようになった。
- ①日本芸術院賞 ②日本山の文学賞 ③毎日出版文化賞 ④読売文学賞
- 59 深田久弥は、昭和46年(1971)3月山梨県の（ ）を登山中に、脳溢血により急逝した。
- ①槍ヶ岳 ②駒ヶ岳 ③茅ヶ岳 ④穂高岳
- 60 平成14年(2002)、大聖寺番場町にあった（ ）会社の事務所や石蔵を利用して「深田久弥山の文化館」がオープンした。
- ①織物 ②酒造 ③機械製造 ④陶器